

2022.8.10発行

MARUNAKA TIMES

第25号

新聞名もリニューアルしました。

「新社名に寄せて」 代表取締役 遊佐 憲雄

2022年8月1日、「有限会社 丸中建設」は「マルナカ 株式会社」へ社名を変更致しましたので、ご報告致します。

1994年8月1日、先代社長である父が、農業の傍ら建設業を営んでいた「丸中建設」を法人化をし「有限会社 丸中建設」が誕生致しました。丸中とは、当家(遊佐家)の屋号で、遊佐家の位置する場所が、集落の中心(真ん中)であることからの呼び名と聞いており、「マルナカ」と言う屋号に歴史を感じておるところです。

法人化して今年で満28年です。28年前は、バブル崩壊により経済がマイナス成長へ突入した時期です。実のところ、私も会社もバブル経済を経験していません。もしかすると、経済的に一番大変な時期にスタートしたことが、生き残れた一因なのかもしれません。

しかし、最大の要因は「地域の皆さんの支え」があってこそと思います。何かと困った時には手を差し伸べて頂きました。本当に感謝してもしきれません。

さて、「何故このタイミングで社名変更?」「本来、節目などにするものでは?」などと言われます。この世の中、明日何が起こるかわかりません。経済評論家の昔話は、もう通用しない事ばかりです。新型コロナウイルスですら、既に3年が過ぎようとしています。残念ながら終息の兆しは見えません。そして、ロシアのウクライナ侵攻は、ロシアVSアメリカ、EU枠で考えれば第三次世界大戦と言っても良いのではないのでしょうか?

10年ほど昔とは言いますが、変化が激し過ぎる時代です。

しかし、世の中がどうなるうとも、社長(私)の1番の仕事は、従業員を守る事です。

私は、1分1秒の判断が命取りになるこんな激動な時代だからこそ、何色にでも染まることができる柔軟性が必要だと思い、社名から「建設」を除きました。

28年前、「農家から一大決心で建設業で生計を立てる事へ舵を切った初代社長」である親父へ相談し建設業から次のフェーズへ挑戦する意志表示も込めて社名変更を決意しました。

間違いない、親父が生きていたから、社名変更が出来たのだと思います。

当社の社訓には、二宮尊徳の言葉があります。

「遠きを図るは富、近きを図るは貧す」

そして、この言葉には続きます。

それ遠きをはかる者は百年のために杉苗を植う。

まして春まきて秋実る物においてをや。

故に富有なり。

近くをはかる者は春植えて秋実る物をも尚遠しとして植えず

唯眼前(たんがんぜん)の利に迷うてまかずして取り

植えずして刈り取る事のみ眼につく、故に貧窮す。

正に、変化の激しい時代を生き抜く為に必要な事だと思えます。

「マルナカ株式会社」は、

3年後、5年後、10年後と 地域の未来貢献へ

Challenge to new things!

(新しいことへ挑戦する)

をキャッチコピーに今後も邁進していく所でございます。

何卒、皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



新CM撮影風景



わたしの宝物 旅の思い出 紹介します

大原文男さんの宝物

愛犬「あづき」ちゃん



3歳の女の子です。

生まれて間もなくうちに来ました。
なまえはあづき（小豆）なのですが
今の体型はあづきというより
「大豆」のように大きくなりました。

斎藤保雄さんの旅の思い出



信州 別所温泉



有形文化財の旅館に泊まる旅。

戸隠で食べたそばがとても美味かったです。

戸隠神社奥社へ参道を約2Km歩いて行きました。



高村 健さんの旅の思い出

ハワイ

新婚旅行で行った思い出の場所。

妻は大の飛行機嫌いですが、もう
一度子どもと一緒にいきたいと言
っているので機会があればぜひ行
ってみたい。

